

令和5年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体をもち、知性と創造性に富む実践力のある子供の育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）
健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）
＜合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子＞

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

子供が、教職員が、保護者が、地域の人々が、誰もが生き生きと輝く学校をめざす。

- (1) 子供が夢や目標に向かって 主体的に活動に取り組む学校
- (2) 知・徳・体の調和のとれた発達と協働する力を育む学校
- (3) 教職員が専門性を発揮し、チーム力を高めて創意工夫に取り組む学校
- (4) 児童・保護者・地域 との信頼関係を築き、家庭や地域の教育力を生かす学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、各種学力調査問題を活用しながら、基礎的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等を育む学習指導の充実に努める。
- (2) 「宮っ子心の教育」を推進し、個に応じた支援及び認め励ます教育の充実に図りながら、児童にとって居がいのある温かい雰囲気の学校経営、学級経営に努める。
- (3) ○心身ともに健康で安全な生活を送るために、体力向上や保健教育、食育、安全教育に関する指導の充実に図る。
- (4) 信頼される教職員を目指して個々の資質・能力の向上を図るとともに、教職員組織のチーム力を高め、働き方改革を推進する。

【若松原地域学校園教育ビジョン】「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWGS学校園」
9年間の学校教育にかかわる教職員が、その思いと責任を共有し、連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係諸法規・法令や新学習指導要領及び県、市の教育行政の方針等を踏まえる。
- (2) どのように学びどのような力を身に付けるのか等「社会に開かれた教育課程」を踏まえる。
- (3) 現代的な課題（SDGs、選挙権年齢の引下げ等）に対応できる資質能力を育成するため、教科等横断的な視点で関連付けを図る。
- (4) 児童の発達の支援、家庭や地域との連携・協働を大切にする。
- (5) 持続可能な社会の創り手となるよう、児童が自分のよさや可能性に気づき自己肯定感を育むことができるよう工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - ・ チーム五代…全教職員が互いに連携し、支え合い、チーム力を高めながら活気ある学校づくりを推進
 - ・ 特色ある学校づくり…地域の教育力をこれまで以上に有効に活用して特色ある教育活動を推進
 - ・ 地域とともにある学校づくり…地域協議会と一体となり地域とともにある学校づくりを推進
- (2) 学習指導
 - 基礎・基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組み、課題を解決し、自分の学びを深めていこうとする児童を育成する。
 - ・ 学び合う（伝える・まとめる・振り返る）力の向上…自ら考え、分かりやすく表現できるようにするための「宇都宮モデル」の活用等、授業の進め方の工夫
 - 基礎・基本定着…基礎・基本定着のための「宇都宮モデル」の活用と家庭学習の習慣化
 - ・ 授業改善…よりよい授業を目指した学力調査等の結果を分析・活用した授業改善
 - ・ 個に応じた指導、支援の推進…一人一人に応じたきめ細やかな指導（少人数指導・かがやきルームとの連携含む）の継続による着実な知識・技能の習得

(3) 児童生徒指導

一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ、自己有用感や規範意識、たくましさを涵養する。(帰属意識の高い学級づくり)

- ・自己有用感・自己肯定感の高揚…自己有用感や自己肯定感を高めるための認め励ます指導の推進
- あいさつ促進…進んで元気なあいさつができるようにするための、児童主体のあいさつ運動の促進
- いじめゼロ推進…すべての児童が楽しく明るく生活できるようにするためのいじめゼロ運動の推進
- ・豊かな心の育成…豊かな心を育むための地域の教育資源を生かした体験活動や道徳教育の実施

(4) 健康 (保健安全・食育)・体力

健康に関する自己管理能力や体力の向上、安全に配慮し行動できる力、望ましい生活習慣や食習慣を身に付ける力を育てる。

- ・安全指導の推進…自分の命を守る行動力を身に付けるための、安全指導の推進
- 食育の推進…自らの健康を管理する力を身に付けるための、保健教育と食育の推進
- 体力の向上…進んで運動し体力を高めるための外遊びの奨励や各種体力検定の実施、体育授業の工夫
- ・たくましさの涵養…心身のたくましさを育むための、学習や生活上の目標達成に向けた努力継続の支援

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テスト、まとめテストや算数の授業で学んだ内容の習熟問題を行い、確実な定着を目指す。さらに、朝の学習、長期休業や毎日の宿題に主体的に取り組めるような工夫をすることで学力向上を図る。 ・学習問題からまとめまでを構造的に板書し、ノートとの一体化を図り、整理された分かりやすいノートの取り方を指導していく。 ・単元を通した学習課題を設定し、児童が協力して学習に取り組める学習形態を取り入れながら、問題解決的な学習を仕組んでいく。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 88.5% ↓ (91.9%) を示し、数値指標 85% を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率 87.3% ↓ (90.5%)、教職員 96.8% ↓ (97.2%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テスト、まとめテストや算数の授業で学んだ内容の習熟問題を行い、確実な定着を目指す。 ・児童が見通しをもつことができるような「めあて」の提示とともに、「めあて」に即したまとめと振り返りを充実させ、各時間での学習内容の定着や達成感を味わうことができるような授業展開を行う。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 保護者アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の思いやりを認め、学年や学級に関係なく、意図的、積極的に褒めていく。また、児童同士が感謝の気持ちを言葉として表す活動を帰りの会や学級活動を通して、常時行うことで、互いに思いやりの心を醸成していく。 ・道徳科及び、学校で行われる全ての活動において、道徳教育の充実を図るとともに、児童が直面した諸問題について、学級または学年で望ましい行動を話し合い、実践できるようにしていく。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答率は、90.6% ↓ (92.6%) であった。数値指標 90% を上回っている。 ・児童の肯定的回答率は 88.7% ↓ (91.3%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士が感謝の気持ちを言葉として表す活動を帰りの会や学級活動を通して、常時行うことで、互いに思いやりの心を醸成していく。 ・道徳科及び、学校で行われる全ての活動において、道徳教育の充実を図るとともに、児童が直面した諸問題について、学級または学年で望ましい行動を話し合い、実践できるようにしていく。 ・学年や学級に関係なく、全教職員で意図的、積極的に児童の優しさや思いやりを認め、褒めていく。

	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の「めあて」や「ふりかえり」を視覚的にも分かりやすく提示し意識させることで、児童の目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいこうとする意欲や態度を育成し、さらに達成感を高めている。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 88.0% ↓ (87.8%) を示し、数値指標 85% を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率 76.8% ↑ (74.8%)、教職員 90.3% ↑ (88.9%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体の学習のめあてだけでなく、個々が自分の目標を設定し、それに向かって取り組む姿が見られた。今後も児童の意欲や達成感を高めていけるよう支援していく。
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ対策の指導をより一層徹底させる。また、状況によって給食後の歯磨き指導を復活し、むし歯予防に努める。 ・靴下や下着、冬期に長袖の体育着の着用の仕方を、五代の子のきまりりとして文書を通して家庭に周知し、児童・保護者の意識の高揚に努める。 ・スタンダードダイアリーに加え、電話連絡やさくら連絡網、タブレットクラスルーム機能も活用し、更に家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。 ・集団登下校や自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、児童引渡し訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力の育成を図る。下校指導には全職員が当たり、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は、89.2% ↓ (93.2%) を示し、昨年度よりも下回り、数値指標も達成できなかった。 ・保護者の肯定的割合は、87.9% ↓ (90.7%) を示し、数値指標を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットや必要に応じてマスクの着用、前向き給食等）を通して、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ対策の指導を徹底させる。また、給食後の歯磨き指導を行い、むし歯予防に努める。 ・靴下や下着、体育着の着用の仕方を、五代の子のきまりりとして文書を通して家庭に周知し、児童・保護者の意識の高揚に努める。 ・スタンダードダイアリーに加え、電話連絡やさくら連絡網、タブレットクラスルーム機能も活用し、児童の健康状態の把握に努める。 ・引き続き、集団登下校や自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、不審者侵入想定避難訓練、児童引渡し訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力の育成を図る。下校指導には全職員が当たり、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に自己の生活を振り返る機会をもつなどして自分の成長を実感させる。また、学級や自分の目標を意識して生活できるようにしたり、道徳の授業を充実させたりして、周りと協力して生活をよりよくしようとする心を育てる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 87.0% であり、数値指標 85% を上回った。 ・教職員の肯定的回答率は 87.1% であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に自己の生活を振り返ることで、自己理解を深め、自分のよさに気付かせたり、成長を実感させたりする。 ・学習や生活の中で、協力して取り組むことで解決できる課題や活動を意図的に取り入れることで、集団のよさを実感させる。 ・学級活動や特別活動、行事等において、児童が主体的に参加し活躍できる場を設定し、児童のよさを発揮する機会を充実させる。 ・学校全体での表彰や学年学級での表彰等、児童一人一人のよさを認め励ましていく。

<p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、外 国語活動(英語)の授業やALT との交流の際に、英語を使っ てコミュニケーションしてい る。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p> <p>A7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、宇 都宮の良さを知っている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<p>・外国語活動の授業において、児童が 興味・関心をもって取り組める課 題を設定する。授業者は積極的に英 語を使い、ALTと連携しながら、コ ミュニケーションの必要性や楽し さを実感できるような授業を行う。</p> <p>・総合的な学習の時間や社会科、生活 科、道徳等で地域や宇都宮市のよさ について具体的に取り上げる。 ・「宇都宮学」を計画的に実施し、郷土 への愛情と誇りの醸成に努める。 ・朝の会や帰りの会等で、宇都宮の良 さについて意図的に紹介する機会 を設け、児童に周知していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 76.7% ↓ (88.5%)であり、数値指標 85%を大き く下回った。 ・教職員の肯定的回答率は 96.8% ↑ (88.9%)であった。 【次年度の方針】 ・簡単な英語表現に繰り返し触れさせ たりALTと協力したりしながら、さ らなるコミュニケーション能力の向上 を図る。</p> <p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 88.0% ↓ (87.8%)を示し、数値指標 85%を上回 っている。 ・保護者の肯定的回答率 76.8% ↑ (74.8%)、教職員 90.3% ↑(88.9%)で あった。 【次年度の方針】 ・クラス全体の学習のめあてだけでな く、個々が自分の目標を設定し、それ に向かって取り組む姿が見られた。今後 も児童の意欲や達成感を高めていける よう支援していく。</p>
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、パ ソコンや図書等を学習に活用 している。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<p>・昨年度に引き続き、積極的にデジタ ル機器を活用する。プログラミング 教育の視点からも、教科等の授業で デジタル機器を使う活動を再度確 認し、適切に活用する。GIGAスク ール構想の整備の充実を図り、1人 1台端末の効果的な活用ができるよ うにする。 ・総合的な学習の時間や教科等の授 業で、積極的に図書室を利用し、ま た、端末の併用により相乗効果を生 み出す活用方法を検討していく。 ・調べ学習等で使用する図書を整理 し、活用できるようにするととも に、巡回図書も積極的に活用してい く。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 85.2% ↑ (84.7%)であり、数値指標 85%を上回 っている。 ・教職員の肯定的回答率は 96.8% ↑ (94.4%)保護者の肯定的回答率は 84.0% ↑(79.7%)であった。 【次年度の方針】 ・目的に応じてICT機器や図書等を効 率的に活用するなど、今後も情報活用能 力を高める活動を取り入れていく。 ・総合的な学習の時間や教科等の授 業で、積極的に図書室を利用し、また、 端末の併用により相乗効果を生み出す 活用方法を検討していく。 ・調べ学習等で使用する図書を整理し、 活用できるようにするとともに、巡回 図書も積極的に活用していく。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、『持 続可能な社会』について、関 心をもっている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<p>・社会科や理科、道徳、総合的な学習 の時間等で、環境問題や持続可能な 社会について取り上げ、自分事とし て考え行動することができるよう に学年に応じた指導を行う。 ・環境保全を目的としたエコキャ ップ回収やクリーン活動、ゴミの分別 などの活動を継続して行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 85.0% ↓ (87.8%)を示し、数値指標 80%を上回 っている。 ・教職員の肯定的回答率は 83.9% ↑ (66.7%)であった。 【次年度の方針】 ・様々な教科でSDGsについて取り上げ られるようになり、児童会活動や給食等 児童の具体的な実践も行われるよう になった。引き続き今年度の具体策を続 けていくとともに、ごみの減量等、学 年に合わせた形で考えさせられるよう 支援していく。</p>

<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、ブロックを中心に日頃から教職員同士が声を掛け合い、担任一人が抱え込まないようにする。 ・対応が後手に回らないよう、相談しやすい雰囲気醸成する。 ・外部機関とつながりある児童が分かるようにしてスムーズに引継ぎが行えるようにする。 ・支援を要する児童の実態を把握し、長期目標と、それを達成するための短期目標を定め、当該児童に効果的な方法を見付けていく。 ・児童の特性や配慮事項などを細やかに記録し、担任以外の教職員が対応できるようにしたり、次年度の引継ぎをスムーズに進めたりできるようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答率は 100% ↑ (97.2%) で、数値指標 95% を上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年、ブロックを中心に日頃から教職員同士が声を掛け合い、担任一人が抱え込まないようにする。 ・対応が後手に回らないよう、相談しやすい雰囲気を醸成する。 ・外部機関とつながりのある児童の情報を実際に把握し、次年度への担任をはじめとする当該児童の関係者にスムーズに引継ぎを行う。 ・支援を要する児童の実態を把握し、長期目標と、それを達成するための短期目標を定め、当該児童に効果的な方法を見付けていく。 ・児童の特性や配慮事項などを細やかに記録し、担任以外の教職員が対応することができるようにしたり、次年度への引継ぎがよりスムーズに進めたりできるようにする。 <p>B</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒肯定的回答 95%以上 保護者アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは決してあってはならないことだということを 4 月の学級開きから、年間を通して指導を継続することで、学級や学校にいじめを許さない雰囲気を醸成し、いじめを予防していく。 ・いじめに関するアンケートは、5 月、10 月、12 月、2 月に実施し、いじめの早期発見に努める。また、児童の不安感解消を第一に考え早期対応に努めていく。 ・児童の様子や変化をよく観察し、気になる児童の様子は学年や児童指導主任、管理職で共有したり、必要に応じて面談を行ったりする。 ・いじめゼロ強調月間において、児童会中心の活動を行うことで、いじめゼロを推進していく。 ・学校での取組を各種便りや学校ホームページを通して発信する。 ・読書の時間に担任によるいじめに関する本の読み聞かせを行ったり、人権に関する作文（あすへのびる）を読む時間を設けたりするなど、自他の人権への関心を高める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 97.3% ↓ (97.9%) で、数値指標 95% を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 76.6% ↑ (75.3%) で、数値指標 80% を下回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめは決してあってはならないことだということを 4 月の学級開きから、年間を通して指導を継続することで、学級や学校にいじめを許さない雰囲気を醸成し、いじめを予防していく。 ・児童だけでなく、保護者との信頼関係の構築に努め、児童一人一人が安心して学校生活を送れるように協力体制を築いていく。 ・いじめに関するアンケート、教育相談、を定期的実施し、いじめの早期発見に努める。また、児童の不安感解消を第一に考え早期対応に努めていく。 ・児童の様子や変化をよく観察し、気になる児童の様子は学年や児童指導主任、管理職で共有したり、必要に応じて面談を行ったりする。 ・いじめゼロ強調月間において、児童会主体の活動を行うことで、いじめゼロを推進していく。 ・学校での取組を各種便りや学校ホームページを通して発信する。 ・読書の時間に担任によるいじめに関する本の読み聞かせを行ったり、人権に関する作文（あすへのびる）を読む時間を設けたりするなど、自他の人権への関心を高める。 ・職員研修の充実化を図り、いじめや人権への理解を深め、指導力向上に努める。 <p>A</p>

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 保護者アンケート「教職員は、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人のよさが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行い、児童の自己肯定感を高めていく。 ・学級活動や道徳、帰りの会等、児童同士で認め合える場面を意図的に設けることで、温かい学級の雰囲気醸成していく。 ・連絡帳や電話を通して児童の頑張りやよさを保護者に伝えていくことで、児童、保護者と信頼関係を築いていく。特に気になる児童には早期に面談を行ったり、家庭と連絡を密にしたりする。 ・一人一人の児童に対し、教育的愛情をもって接し、認め励ましていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答率は、88.4%↑(84.6%)で数値指標 85%を上回っている。 ・児童の肯定的回答率は 95.2%↓(95.4%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人のよさが発揮され、居がいのあるクラスづくりを行い、児童の自己肯定感を高めていく。 ・学級活動や道徳、帰りの会等、児童同士で認め合える場面を意図的に設けることで、温かい学級の雰囲気醸成していく。 ・学校生活における児童の頑張りやよさ、取り組み等を保護者に伝えていくことで、児童や保護者との信頼関係を築いていく。 ・一人一人の児童に対し、教育的愛情をもって接し、認め励ましていく。
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営を中心として、授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 ・引き続き、児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 ・小中一貫教育実施に伴い、乗り入れ授業等9年間を通した児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は、95.2%↑(86.2%)を示し、昨年度よりも上回り、数値指標も達成できた。 ・保護者の肯定的割合は、89.7%↑(87.3%)を示し、昨年度よりも上回り、達成状況も良好である。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営を中心として、授業や特別活動、なかよし班活動等において、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 ・引き続き、児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 ・小中一貫教育実施に伴い、乗り入れ授業や進学先中学校訪問、児童指導連絡会等、児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを明確にし、そのねらいを達成するための具体的方策を工夫する。児童が興味・関心をもって授業に臨めるような課題を設定するとともに、「学習問題」を明確にし、「まとめ」を意識した分かる授業を組み立てる。まとめや振り返りの時間を確保し、授業の終末を充実させることで、学習内容の定着を図り、学力向上につなげる。 ・一人一授業や研修会の実践などにより、教員間での学び合いを深められるようにする。 ・「分かる授業」チェックリストの活用により、自己評価を行い、授業力向上につなげられるようにする。 ・どの学級でも学習の進め方を統一することで、次年度以降、担任が変わっても授業形態が変わらないようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 96.3%↑(95.9%)で数値指標 95%を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 80.7%↓(82.7%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修や授業研究の機会を充実させ、教員間での学び合いを深められるようにする。 ・児童の実態に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を継続していく。 ・子どもの学びが継続していくような学習の進め方を統一することで、次年度以降、担任が変わっても授業形態が変わらないようにする。

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なことについても教職員の共通理解を図り、目的やそれぞれの役割を考えながら業務に取り組めるように、掲示板や打合せを有効に活用する。 ・PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、全教職員が協働して業務にあたる。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 96.8% ↑ (91.7%) を示し、数値指標 90% を上回っている。 【次年度の方針】 ・学年・ブロック、校務分掌等で課題を共有し、具体策を引き続き確実に実施していくとともに、一人で抱え込まないようお互いに声を掛け合って業務にあたっていけるようにする。</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板を効果的に活用し、会議や打合せを精選する。 ・PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、スタッフ間の連携・協力を促進し、業務の重なりや非効率な点がないかを精査改善する。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 87.1% ↓ (91.7%) を示し、数値指標 85% を上回っている。 【次年度の方針】 ・アフターコロナで混沌としてしまった行事等の整理や、日課の変更を工夫するなど改善策を図り、精査・改善に取り組んでいく</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、地域学校園の小学生や中学生、先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意義のある乗り入れ授業や中学校訪問になるように、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また地域学校園教科部会・分科会の機会において、職員が相互理解を図ることができるようにする。 ・運動会での水撒きや陸上練習、小中合同あいさつ運動等、学校行事や地域学校園行事において、児童生徒が可能な限り交流をもつことができるように計画する。 ・若松原地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛け、相互理解を進め、小・中学校間の学習での接続を意識した連携を行っている。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的割合は、児童で 85.5% ↑ (83.2%) と良好であったが、保護者で 74.3% ↓ (77.4%) を示した。 【次年度の方針】 ・意義のある乗り入れ授業や中学校訪問になるように、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また地域学校園教科部会・分科会の機会において、職員が相互理解を図ることができるようにする。 ・運動会での水撒きや陸上練習、小中合同あいさつ運動等、学校行事や地域学校園行事において、児童生徒が可能な限り交流をもつことができるように計画する。 ・次年度の要請訪問等、若松原地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛ける。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒肯定的回答 85%以上 地域住民アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。(魅力ある学校づくり地域協議会、学校支援ボランティア、企業等、地域の教育力を生かした教育活動など)」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域、企業等と連携を図り、「出前授業」等で児童の学びにつなげるようにする。 ・地域協議会委員が、児童の学習の様子を参観する機会を設ける等して児童の実態を知らせる。 ・低学年における幼・保・小連携の推進や、「五代夏まつり」、地域の行事等への参加を通して、児童に地域との関わりをもたせる。 ・学校・家庭・地域間の連絡を密にし、登下校等について話し合うなどして児童の安全確保に努める。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 89.5% ↑ (88.8%) を示し、数値指標 85% を上回っている。 ・地域住民の肯定的回答率は 90.0% ↑ (85.1%) で、数値指標 80% を上回った。 【次年度の方針】 ・5月以降実施できるようになった活動が増えたが、ノウハウを共有できていないところもある。関係機関と連携しながら内容を工夫し、次年度は年間を通して充実させていく。</p>

<p>6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1度の安全点検や日常的な点検を実施するとともに、配慮児童等の身体の状態に応じたバリアフリー化を図る。 	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的割合は、96.8%↓(97.2%)を示し、昨年度と同程度で、数値指標を達成できた。 ・保護者の肯定的割合は、87.7%↑(83.8%)を示し、昨年度および数値指標も上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1度の安全点検や日常的な点検を実施するとともに、配慮児童の身体の状態に応じたバリアフリー化を図る。 ・各教室や廊下、準備室、倉庫などの整理整頓に努め、安全に配慮する。 <p>机イス</p>
<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している。 ※デジタル・・・1人1台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなど ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングの学習で使用する教材の準備・確認をし、授業ですぐに使用できるようにする。専門性の高い支援者（ICT支援員等）の積極的活用を図る。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答率は93.5%で数値指標80%を上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル機器を使用した学習の教材の準備・確認をし、授業ですぐに使用できるようにする。専門性の高い支援者（ICT支援員等）と連携を図る。
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上 保護者アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の目を見て、挨拶することや会釈することに重点をおいて指導をしていく。 ・全教職員で、時と場に応じた挨拶が上手にできている児童を称賛していく。またその児童を担任に伝える。 ・学級において、挨拶について話し合い、称賛及び指導を繰り返し行い、挨拶の習慣化が図れるようにしていく。 ・教師自身が手本を示し、率先して挨拶をすることで、挨拶を返したり、自分から挨拶したりできるよう全校で推進する。 ・各種たよりや学校ホームページ等に挨拶推進の取組を紹介したり、挨拶を啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。 	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は91.4%↓(94.7%)で数値指標85%は上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は74.9%↓(82.7%)で、数値指標を下回っている。 ・教職員の肯定的回答率87.1%↑(86.1%)、地域住民81.8%↓(100%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の目を見て、挨拶することや会釈することに重点をおいて指導をしていく。 ・全教職員で、挨拶が上手にできている児童を称賛していく。またその児童を担任に伝える。 ・学級において、挨拶について話し合い、称賛及び指導を繰り返し行い、挨拶の習慣化が図れるようにしていく。 ・教師自身が手本を示し、率先して挨拶をすることで、挨拶を返したり、自分から挨拶したりできるよう全校的に推進する。 ・時と場や人に応じた挨拶の仕方を繰り返し指導していく。 ・各種たよりや学校ホームページ等に挨拶推進の取組を紹介したり、挨拶を啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。

<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「五代の子の一日」は、年度初めに各家庭に配付し、ルールの確認と意識付けを図るとともに、節目ごとに振り返りを行う。 ・振り返りカードを活用し、児童一人一人が自身の行動を振り返り、目に見える形で行えるよう実施する。 ・児童指導部会の場で、各学年および学校の児童の実態を把握し共通理解を図り、対応策、または諸問題行動の予防策を考え、きまりやマナーを守ることを全校的に推進していく。 ・職員会議後の児童指導及び特別な配慮を要する児童に関する情報交換やケース会議などにおいて、児童理解を深めるとともに、組織的に対応できるよう指導の徹底を図っていく。 ・五代小学校、新田小学校、若松原中学校の児童指導主任、生徒指導主事を中心に情報交換を行い、学校園全体で自己指導能力を高められるよう指導していく。 ・HP や便り等を活用して、児童の様子を保護者や地域に発信していく。 	<p>B 【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 90.5% ↑ (90.1) で、数値指標 80% を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率 88.0% ↓ (93.6%)、地域住民 90.9% ↓ (100%) と、いずれも昨年度を下回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「五代の子の一日」は、年度初めに各家庭に配付し、ルールの確認と意識付けを図るとともに、節目ごとに振り返りを行う。 ・振り返りカードを活用し、児童一人一人が自身の行動を振り返り、目に見える形で行えるよう実施する。 ・児童指導部会の場で、各学年および学校の児童の実態を把握し共通理解を図り、対応策、または諸問題行動の予防策を考え、きまりやマナーを守ることを全校的に推進していく。 ・職員会議後の児童指導及び特別な配慮を要する児童に関する情報交換やケース会議などにおいて、児童理解を深めるとともに、組織的に対応できるよう指導の徹底を図っていく。 ・五代小学校、新田小学校、若松原中学校の児童指導主任、生徒指導主事を中心に情報交換を行い、学校園全体で自己指導能力を高められるよう指導していく。 ・HP や便り等を活用して、児童の様子を保護者や地域に発信していく。
<p>B3 児童は楽しい学校生活を送っている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、楽しい学校生活を送っている。」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営を工夫して、児童一人一人の良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行っていく。 ・アンケートを基に、計画的に教育相談を行い、児童一人一人を受容的な態度で受け止め、児童に寄り添う姿勢を全教職員が継続していく。 ・職員研修等を通して、学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 ・学年会を適宜行い、学級間で児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を密に行い、協力して児童が安心して楽しく学校生活が送れるようにする。また、担任が一人で抱え込まないように、必要に応じてケース会議を開き、組織的に対応をしていく。 ・適宜、放送機器を活用するなど活動の形態を工夫し、児童が活躍できる場を設ける。 ・学級活動や休み時間に友達と交流を深める場面を意図的に増やしていくことで、児童同士がよい関係を築いていけるように橋渡しをしていく。 	<p>B 【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 90.9% ↑ (88.6%) で、数値指標 90% を上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学業指導に力を入れ、児童一人一人の良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行っていく。 ・アンケートを基に、計画的に教育相談を行い、児童一人一人を受容的な態度で受け止め、児童に寄り添う姿勢を全教職員が継続していく。 ・職員研修等を通して、学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 ・学年会を適宜行い、学級間で児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を密に行い、協力して児童が安心して楽しく学校生活が送れるようにする。また、担任が一人で抱え込まないように、必要に応じてケース会議を開き、組織的に対応をしていく。 ・ICT機器や個人用パソコンを活用するなど、活動の形態を工夫し、児童が活躍できる場を設ける。 ・学級活動や休み時間に友達と交流を深める場面を意図的に増やしていくことで、児童同士がよい関係を築いていけるように橋渡しをしていく。

<p>B4 児童は、進んで本を読んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童アンケート「私は読書が好きで、進んで本を読んでいる。」</p> <p>⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書記録カードや音読カードを活用し、自分の読書を振り返ることができるようにすることで、読書の量的・質的向上を図る。 ・朝の読書では、学年の「必読図書」の読書を奨励し、時間までに「物語」の本を選び、着席するようにする。 ・「必読図書」は教室に配置し、児童がより本に接しやすい環境を整える。 ・教職員・図書委員による読み聞かせなど、児童が本に触れる時間を増やしていく。 ・巡回図書の活用方法を工夫し、いろいろな本に接することができる環境を整える。 ・「親子読書」を年2回実施し、家庭での読書習慣の形成の一助とする。 ・児童や教職員の意見や希望を取り入れながら、図書の計画的な購入・配架を行う。図書ボランティアと連携し、引き続き図書室の環境整備に努める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定回答率は 67.8% ↓ (73.5%)を示し、数値指標 80%以上には達していない。 ・保護者の肯定的回答率 56.9% ↓ (59.3%)、教職員は100% ↑ (91.7%)、地域住民は 66.7% ↓ (100%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度行ってきたイベントや取り組みを、可能な範囲で継続し、読書活動を推進していく。 ・読書記録カードや音読カードを活用し、自分の読書を振り返ることができるようにすることで、読書の量的・質的向上を図る。 ・朝の読書では、学年の「必読図書」の読書を奨励し、時間までに「物語」の本を選び、着席するようにする。 ・教職員・図書委員による読み聞かせなど、児童が本に触れる時間を増やしていく。 ・巡回図書の活用方法を工夫し、いろいろな本に接することができる環境を整える。 ・「親子読書」を年2回実施し、家庭での読書習慣の形成の一助とする。
<p>B5 学校は、学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができています。」</p> <p>⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習についての資料を配付し、家庭学習の意義や効果を保護者に伝えていく。 ・音読カード・家庭学習カードを活用し、家庭と連携して学習習慣の形成を図っていく。 ・家庭学習強化週間の年2回(6月、12月)の実施を続けていく。 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でも検討を行い、質・量ともに児童の発達段階に合った課題を出せるようにする。 ・「自主学習の仕方」や友達の実践例を活用し、個人の意欲や実力に合った学習方法を工夫できるように支援する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定回答率は 84.6% ↓ (89.5%)を示し、数値指標 85%を下回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 80.9% ↑ (77.2%)、教職員は 100% ↑ (94.4%)、地域住民は 88.9% ↓ (100%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、年2回家庭学習強化週間を実施し、家庭と連携して児童の学習意欲を高め、家庭学習の習慣化を図っていく。 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でも検討を行い、質・量ともに児童の発達段階に合った課題を出せるようにする。 ・「自主学習の仕方」や友達の実践例を活用し、個人の意欲や実力に合った学習方法を工夫できるように支援する。

	<p>B6 教職員は、児童が主体的に学習に取り組むことができるような指導法を工夫している。</p> <p>【数値目標】 児童アンケート「先生は、自分から進んで勉強に取り組むことができるように教えてくれる。」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等において、児童が興味関心をもてる内容と絡め、主体的に学習に取り組み、自分の学びを深めていけるよう支援する。 各教科だけでなく、学校生活全般で言語活動の充実を図り、多様な手段で表現できる力を育成する。 コグトレを朝の活動に位置づけ、認知機能を高めるトレーニングを継続して行うことで、基礎学力の土台づくりをしていく。 1人1台端末、ホワイトボード、実物投影機等を効果的に使い、「発表する」「伝える」態度の育成に取り組む。 	<p>B 【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定回答率は 93.5% ↓ (93.7%) を示し、数値指標 90% を上回っている。 保護者の肯定的回答率 77.6% ↓ (78.4%)、教職員は 100% ↑ (94.4%)、地域住民は 100% (100%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科等において、児童が興味関心を持てる内容と絡め、主体的に学習に取り組み、自分の学びを深めていけるよう支援する。 コグトレオンラインを朝の活動に位置づけ、認知機能を高めるトレーニングを継続して行うことで、基礎学力の土台づくりをしていく。 1人1台端末、ホワイトボード、実物投影機等を効果的に使い、「発表する」「伝える」態度の育成に取り組む。
	<p>B7 学校は、道徳教育や授業、様々な活動等を通して「心の教育」を推進し、豊かな人間性を育てている。</p> <p>【数値目標】 児童アンケート「学校(高学年：道徳や授業、体験活動など)は、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業では、豊かな人間性を育てるような教科書やデジタル教材を活用する。必要に応じて教材の開発をし、資料等は保管・整理して活用できるようにする。 幼保小連携活動は、連携を密にし、活動の意義を踏まえて心を育てられるような活動内容を検討する。 なかよしタイムや縦割り班清掃などの異学年交流では、助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるよう、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったりしていく。 道徳の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。 	<p>B 【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定回答率は 93.9% ↓ (94.2%) を示し、数値指標 90% を上回っている。 保護者の肯定的回答率 86.0% ↑ (84.8%)、教職員は 100% (94.4%)、地域住民は 90.0% (100%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業では、教科書やデジタル教材を活用する。必要に応じて教材の開発をし、資料等は保管・整理して活用できるようにする。 幼保小連携活動は、連携を密にし、活動の意義を踏まえて活動内容を検討し、内容を精選する。 なかよしタイムや縦割り班清掃などの異学年交流では、助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるよう、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったりしていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。